

令和8年2月20日

富山県立富山工業高等学校
校長 岩原 善延

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

全日制において、学習指導では、1人3資格を目標に掲げた結果、3年間の資格取得平均は4つに達し、複数回の挑戦や学科の特色を踏まえた取り組みが、生徒の自信向上や主体的な学習姿勢の醸成につながった。しかし、取得者ゼロへの支援継続や学習時間の確保など、依然として改善が必要な点も明らかになった。生徒指導では、生活アンケートを年5回に増やすなど情報収集の精度を高め、学年を超えた連携も一定の成果を上げたものの、学年団との会議が十分に実施できず、全体体制の強化という課題が残った。スマートフォン使用や SNS トラブルの増加など、新しいタイプの問題も顕在化しており、ICT を活用した迅速な情報共有と指導方法の見直しが求められる。進路指導においては、12月時点で進路未決定者ゼロを達成し、全員が就職または進学先を確定するという大きな成果が得られた。早期の進路意識づけ、企業情報の収集、面接指導など教職員の組織的な支援が功を奏した一方、面接力や SPI 対策など個別支援のさらなる強化が必要であることも示された。部活動では、運動部を中心に目標設定や振り返りの仕組みを導入し、生徒の主体性を高める取り組みが一定の効果を上げた。しかし、部長交代による浸透の遅れなど課題も残り、今後は文化部・工学部を含む全体的な改革が望まれる。加えて、働き方改革との両立も引き続き重要な視点である。

定時制では、資格取得率 71.4%、出席率 71%と大きく向上し、丁寧な声かけや信頼関係づくりが生徒の登校意欲を支えていることが確認された。

総合すると、主体性育成や個別支援の面で大きな進展が見られた一方、情報共有体制、ICT 活用、指導時間の確保などの課題も明確である。次年度は、これらの改善を進め、より持続可能で充実した教育活動を実現していくことが求められる。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価結果から明らかになった課題を職員全体で共有し、改善に向けた取組体制の強化を図る。特に、学習指導・生徒指導・進路指導など各分野で見えてきた課題を計画に反映し、より実効性の高い運営を目指す。
- (2) 達成目標が実態に適しているかを改めて検討し、成果を的確に把握できる調査方法を工夫することで、重点課題への取り組みをより効果的に進める。
- (3) アクションプランの公開を通して、学校の方針や取組に対する地域や保護者の理解を深め、より緊密な連携体制の構築を進める。
- (4) 学校評価システムを活用し、教職員が学校教育の方向性について共通理解を深めることで、生徒の自己実現と人間形成につながる教育活動を一層充実させていく。

8 学校アクションプラン

令和7年度 富山工業高校アクションプラン -1-		
重点項目	学習指導の充実	
重点課題	主体的に学習に取り組む意欲と学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。 令和6年度卒業生は、延べ1138の各種検定や資格試験に合格している。 3年間での一人平均の資格合格数は、3つとなる。 	
達成目標	一人当たりの検定合格または、資格取得数	
	一人平均 3つ	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に資格検定の重要性を理解させるとともに、その実施時期等の年間計画を作成、提示することで、生徒の資格取得への意欲を高める。 ○ 資格の取得が0個の生徒への働きかけ。 ○ ジュニアマイスター制度及び高校生マイスター認定制度の周知徹底を図り、ものづくりを学ぶ意欲を高める。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度3年生の検定合格または資格取得数は、のべ1250人でした。 ○ 令和7年度3年生の1人当たりの平均検定合格または資格取得平均は、4つでした。 ○ 令和7年度3年生のうち、資格取得が0個の生徒が4名でした。 	
具体的な取組状況	<p>令和7年度の3学年（1～3年）の資格取得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間を通して多くの検定等を受験し、合格に向け担当の先生方が朝学習や放課後に補習を行うなど手厚い指導が行われている。 ○ 検定によっては、クラス全員が合格できた検定もあった。資格取得を通して学習に対する自信を持つことができたのではないかと考えている。 ○ 一つの資格を何度も挑戦し、合格している事例も多くあり、あきらめずに挑戦することの大切さを体験することができた。 ○ 上位資格への挑戦が見られた。 	
評 価	A	各学科や教科での各種検定や資格取得を目指し学習をする機会を確保し、専門教科の関心を高めたり、学びの視野を広げたりすることから実践的な学びにつなげたい。
学校評議員の意見	生徒が平均4つの資格を取得している点を踏まえると、“達成”または“ほぼ達成”と判断してよいとの意見があった。また、資格等取得に複数回挑戦する前向きな姿勢も評価され、今後もより多くの生徒が資格取得できる環境づくりが重要と指摘された。	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学習時間を確保するための工夫を行う。 ○ 学科に必要な資格への目的意識を高める。 ○ 課題の配信や採点ナビの導入などICTを活用した効率的な学習方法を模索する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 富山工業高校アクションプラン -2-

重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	教員間の情報共有を密にし、きめ細やかな生徒指導を実施する	
現 状	○ 近年、本校に入学してくる生徒一人ひとりの理解度の差が顕著である。また、個別の配慮が必要な生徒が増えてきており、担任だけでは対処できない事案が増えている。	
達成目標	生徒の個別の情報について、教員間で共有を図る機会を増加する	
	生徒指導部と学年団の打ち合わせの機会を増加（令和6年度 1回）	
方 策	○ 各学期終了時に、学年団との打ち合わせの機会を設け、生徒の情報共有を図ることで、新学期からの指導に活かす。 ○ 学年主任との連絡を密にして、学期途中の学年や生徒の現状を把握し、迅速な対応を実施する。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で現状の問題点を共有し多方面からの指導を実践する。	
達 成 度	○生徒指導部と学年団の打ち合わせの機会を増加（令和7年度 1回） ○学年主任との情報共有（2回）	
具体的な取組状況	○昨年度、学期に1回（年3回）だった学校生活アンケートを各考査終了時（年5回）実施し、学年と生徒についての情報共有を行う機会を増やしたことで、個々の生徒の実態やクラスの雰囲気を掴みやすくした。 ○長期休業明けから学校を休みがちな生徒の情報を、学年を超えて情報共有を図る機会を設け、生徒が抱える様々な悩みについて、担任や学年だけではなく学校全体で解決に向けての方策を考えた。 ○teams を活用し、生徒指導上の生徒への注意喚起や外部からの苦情連絡などを、教員を含む学校全体にその都度発信することで、生徒の実態についての情報共有に努めた。	
評 価	C	学校生活アンケートの回数を増やしたり、学年を超えた情報共有を図る機会を設けたりした結果、様々な問題に対して素早く対応できるようになり、問題行動の件数は、例年よりも減少している。ただ、過去にはなかった細かいトラブルは増加しており、生徒の個々の現状把握のためにも、当初予定していた学年団との打ち合わせの機会を多く設定する必要があると考え、この評価に至った。
学校評議員の意見	欠席が続く生徒への対応や個別支援の重要性が指摘され、課題の多様化に対応するためにも情報共有を強化し、チームとして支援を進めるべきとの意見があった。また、SNSトラブルやスマートフォン使用については、継続的な注意喚起とルール徹底が必要との指摘がなされた。	
今後に向けての課題	近年、基礎学力が不足している生徒や指導に配慮が必要な生徒が増えており、今まで以上に情報共有を図り、チームで指導にあたらなければならないと考えている。しかし、教員の業務量も年々増加しており、場の設定が難しくなっている。これからは、個人情報に配慮しながら、ICT 機器を積極的に活用し、生徒の情報共有を図り、生徒の健全な育成に活かしていかなければならないと考えている。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 富山工業高校アクションプラン -3-

重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に応じた進路決定への取り組みを充実させる	
現 状	○ 自らの進路選択に対して主体的に取り組むことに積極的ではなく、自己肯定感が希薄な生徒が少なくない。確固とした職業観や就労意識、進学目的意識の涵養が必要である。課題達成のためには、生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒が主体的に進路選択をできるように段階に合わせて指導していくことが大切と考える。	
達成目標	3学年12月末における卒業後の進路未決定者（可否結果待ちを除く）	
	0名（R6 3名）	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進学・就職意識を早期より確定させ、進路の研究と対策を充実させる。 ○ 企業情報の収集を積極的に行い、個々に応じた的確な指導助言に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが希望する企業について生きた情報を収集させ、その上で応募先を決定させる。 ○ 進路面談室を利用しやすい環境に整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応するとともに、指導相談体制の充実を図る。 ○ 面接指導や応募書類作成等、全教職員の協力を得て、個々に応じたきめ細かい指導を行う。 	
達 成 度	12月までに3年生全員の進路が決定した。 (就職希望者は全員が内定。進学先未定の者も、進学の意向に変わることはない)。	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路説明会や学年集会等における講話を通じて、進路決定への積極的な取り組みと就業意識の向上を促した。 ○ 会社説明会（県工業教育振興会主催）の機会を活用し、企業への興味関心を高めさせた。 ○ 管理職、各学科、3学年、進路指導部で分担し、約100社の企業と面談や電話連絡を行い、採用計画の把握に努めた。 ○ 外部の求人情報照会サービスを活用するとともに、本校独自のシステムを継続使用し、生徒用タブレットでの求人票の閲覧、条件検索が円滑にできる環境を整備した。 ○ 就職希望者の2社ないし3社応募前職場見学を継続して実施した。応募先は十分に比較検討をした上で決定するよう心掛けさせた。ミスマッチの防止にも繋がるかと考える。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて、情報を迅速に提供した。 ○ 3年生を対象に、卒業生による進路体験講話を実施した。 ○ 製造業・建設業を中心とするインターンシップ（7月上旬に3日間）を実施し、県内企業133社で2学年生徒が就業体験をした。 	
評 価	A	一次受験で不合格となった生徒は民間企業8名、公務員4名であったが、その後の粘り強い取り組みにより、全員が進路を決定することができた。
学校評議員 の意見	インターンシップが進路意識の形成に有効である点や、進路決定の早期化が重要であるとの意見があった。また、面接で自分の言葉で話せないことやSPIの得点不足が不合格要因として挙がり、個別支援の強化と早めの対策が必要との指摘があった。	
今後に向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○早い段階からの現実的な進路の目標設定を促し、個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○産業界（企業）の最新のニーズを踏まえ、求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○学校生活全体を通して、高校卒業後の将来について主体的に考えることを意識させる。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	部活動の充実（質の向上）	
重点課題	自主自律を育む部活動運営	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動に対する取り組みがやや受け身で、主体的に目標を持った取り組みができていない生徒が増えた。 ○ 部活動を通じて人間性や社会性を育てる場として、育てたい力があまり育っていない。 	
達成目標	自らで決めて、達成経験をする機会を作る (課題解決に向けた実践目標の設定と自己評価)	
	定期ミーティングや部長会議での振り返りを充実（学期に1～2回）	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちで課題を話し合い、解決に向けた具体的な実践目標や数値を設定し、その取り組みについて自己評価する機会を作る ○ 部長会議で各部の活動状況報告や自己評価の結果を発表し、相互評価することでさらに質を見直す機会とする。 ○ 目的の確認や目標設定の修正を行うことで、さらに次の学期や目指す大会へとつなげられるようサポートする。 	
達 成 度	<p>今回は運動部のみ実施</p> <p>自分たちで設定した目標や具体策について意識して取りくむことができた割合。（約5割）</p> <p>部長が入れ替わったこともあり、うまく部員に浸透しなかった部もあった。（約3割）</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月に部長会議を開催し、全運動部において「競技目標」「活動の目的」「具体的な行動目標」を話し合い、内容を提出するよう求めた。 ・ 各部の毎日の活動に反映していくよう促した。 ・ 12月に上半期の活動の振り返りを行い、各部からできたこと、できなかったこと、その理由などを分析して発表してもらった。 ・ さらに下半期で改善や意識付けを行い、各部の活動の質を上げるよう促した。 	
評 価	B	多くの部がそれぞれでしっかりと目標を設定して、そこに向けての高い志で活動することができた。
学校評議員の意見	<p>部活動において生徒の主体性や自律性が十分に育っていない点が課題として挙げられ、今後は自分たちで考え行動する力を育てる仕組みづくりを強化すべきとの意見があった。また、働き方改革の観点から休日活動への教員負担の大きさも指摘され、改善を求める声が示された。</p>	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の活動プランや、長期、短期の練習計画など部員や顧問での話し合いを深め、自分たちが主導で活動できるようにし、主体性や自主性を養いたい。 ・ 部顧問の役割としては、部長や上級生が全体に目を配り、部員が相互に活動状況をチェックしあい、最適な状態になるためのアドバイスや調整をする。 ・ 今後は文化部、工学部にも活動の質の向上を促す。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

【定時制】

令和7年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-			
重点項目	学習活動		
重点課題	資格取得を活用した学習指導		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の生徒の大半は、卒業後に工業の専門的な知識や技術を活かせる仕事に携わることが希望しているが、専門科目に対して受動的な学習態度になりがちである。そのため資格取得を目標に持たせ、専門的な知識や技術を主体的に学ぶ姿勢の涵養に努めている。 ・定時制の生徒は入学前の学習状況に起因する基礎学力不足が影響し、高校での学習内容を既習事項に関連付けて理解することに困難が生じている。そのため学校設定教科「生活」を開設し、学び直しとして、漢字の読み書き、計算力、英語の語彙力の伸長と、一般教養について学習する機会を設け、工業の専門科目を学ぶ上での下支えをしている。 		
達成目標	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合として65%以上を目標とする。【R6年度実績：75.0%、R5年度実績：70.0%】		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談等を踏まえて学力に応じた資格検定を選定し、それに挑戦することによって得られる学びの大切さを説き、生徒本人が主体的に学習に取り組めるよう励ましながらサポートする。 ・各種検定の内容と各学科の専門科目の内容を関連づけた指導をするなかで、生徒が継続的に目標に向い、達成感が実感できる指導法を模索する。 ・生徒との面談を通して必要な補習計画を立案し、進捗に応じた見直しを図りながら遂行する。 ・学校設定教科「生活」を活用し、基礎学力を土台とした工業の専門的な知識や技術の習得を促進する。 		
達成度	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格した生徒の割合 ◎検定合格者数5名（在籍7名）・・・71.4% 【3種目・・・2名、1種目・・・1名（R8.1.21現在） 在校生でのべ9種目】		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのこまめな面談を通して、本人の状況を把握しながら、検定に向けた準備の進捗状況に応じたサポートや補習を実施した。結果として、個々の生徒の実情に合わせた指導を概ね行うことができた。 		
評 価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 20%;">A</td> <td>方策に沿って個々の生徒に効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。</td> </tr> </table>	A	方策に沿って個々の生徒に効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。
A	方策に沿って個々の生徒に効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。		
学校評議員の意見	工業校長協会検定と国家資格のどちらを優先するのかという質問があり、生徒の実力に応じて段階的に受検させる方針が説明された。小さな成功体験として校長協会検定を活用し、自信をつけたうえで国家資格に挑戦させる取り組みが評価された。		
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も親密なコミュニケーションを通して生徒との信頼関係を深めながら、生徒が主体的に資格取得に挑戦する姿勢の涵養に努め、生徒の実情に応じたサポートを実践したい。 		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

【定時制】

令和7年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度が欠けていたりする傾向にある。また、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られ、働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。</p>
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 57% 以上（7人中4人） 【R6年度実績：43% R5年度実績：36%】 ＊皆勤 = 1カ年の欠席が0日 ＊精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 （皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する）</p>
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒とのコミュニケーションを積極的にとり、生活実態の把握に努める。 ・授業の遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等を随時行う。 ・将来を見据えた進路指導を行うことで、基本的な生活習慣の大切さを自覚させる。 ・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・スクールカウンセラーや保護者と緊密な連絡体制をとり、問題等の未然防止に努めるほか、問題等が発生したときは、状況に応じて早期に対策を施す。 ・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。
達成度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合：71%（実質登校者数7名中5名 12月24日現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の健康や生活状態を確認（登校時、STなどでの声かけ） ○ 保護者との連携（生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応） ○ 教育相談（養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見） ○ 授業出欠状況の確認と生活指導（授業担当者による遅刻・欠席時数の集計）
評 価	<p>A</p> <p>目標とする割合57%に対し71%と大きく上回った。皆勤・精勤生徒以外の2名は、10日以上欠席している。</p> <p>今年度も日常から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねた。また自己不安、家庭不安など、心が不安定で消極的になり、欠席、欠課しがちな生徒には、教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図りながらスピード感ある対応を心がけてきた。今後も、進級や卒業を目指して、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増えるよう、粘り強い指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	<p>生徒への過度な働きかけではなく、日常的な優しい声かけや温かい関わりが登校につながっていることについて、教職員の姿勢が大きな支えになっていると評価された。また、学校全体としては小さな改善の積み重ねが生徒の生活向上に寄与しているとの意見もあった。</p>
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ○ 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ○ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ○ 進路決定後の生活習慣の安定化を図る。 ○ 養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。 ○ 家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）